JENESYS2.0

「JENESYS2.0」
2016年度中国青年代表団
訪問日程　平成28年8月2日（火）～8月6日（土）

1　プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した2016年度中国青年代表団（団長：宋敬武（ソウ・ケイブ）中国人民対外友好協会 副会長）計94名が、8月2日から8月6日までの4泊5日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京・千葉・京都の行政・経済・医療に関する官庁・企業・病院などへの訪問及び関係者との交流を通じて、専門分野への理解と日本の青年や市民との親睦を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通じて、「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2　日程

8月2日（火）

公務員グループ、経済グループ　：羽田空港より入国、皇居・二重橋見学、東京タワー見学
医療グループ　：成田空港より入国
共　通　：オリエンテーション

8月3日（水）

公務員グループ　：大田区産業支援施設訪問・視察、東京都庁表敬訪問・講義
経済グループ　：一般社団法人日本経済団体連合会訪問・講義、東京証券取引所視察、キッコーマン株式会社むらさきの里もの知りしょうゆ館視察
医療グループ　：皇居・二重橋見学、Daiichi Sankyo くすりミュージアム視察、東京大学医学部附属病院訪問
共　通　：歓迎会

8月4日（木）

共　通　：京都へ移動、二条城見学
公務員グループ　：京都市南部資源リサイクルセンター視察
経済グループ　：京セラ株式会社訪問・視察
医療グループ　：オムロンヘルスケア株式会社訪問・視察
共　通　：和風旅館での日本文化体験

8月5日（金）

金閣寺見学、東京へ移動、商業施設視察、歓送報告会

8月6日（土）

共　通　：江戸東京博物館見学
公務員グループ、経済グループ　：成田山新勝寺見学、成田空港より帰国
医療グループ　：東京タワー見学、羽田空港より帰国

3　写真

8 月 2 日 皇居二重橋見学　　（東京都）

8 月 2 日 東京タワー見学　　（東京都）

8 月 3 日　大田区産業支援施設訪問・視察
（東京都）

8 月 3 日 東京都庁表敬訪問
水越英明外務長（右）と宋敬武団長（東京都）

8 月 3 日　一般社団法人日本経済団体連合会
訪問　　（東京都）

8 月 3 日　東京証券取引所視察
（東京都）

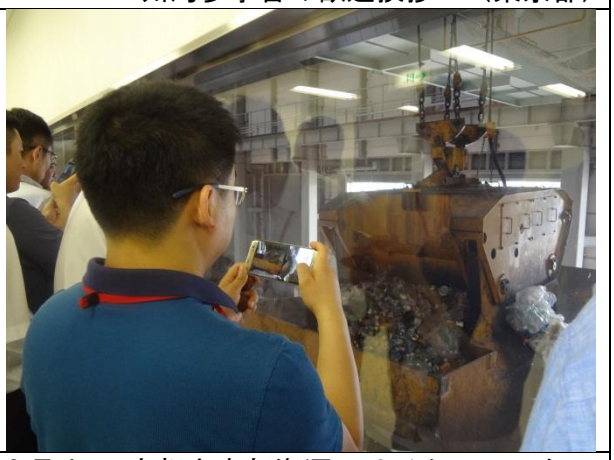
8月3日　キッコーマン株式会社むらさきの里もの知りしょうゆ館視察（東京都）

8月3日　Daiichi Sankyo くすりミュージアム視察（東京都）

8月3日　東京大学医学部附属病院訪問（東京都）

8月3日 歓迎会 四方敬之外務省アジア大洋州局参事官の歓迎挨拶　（東京都）

8月4日 二条城見学　（京都府）



8月4日 京都市南部資源リサイクルセンター視察　（京都府）

8 月 4 日 京セラ株式会社訪問・視察
（京都府）

8 月 4 日 オムロンヘルスケア株式会社
訪問・視察 （京都府）

8 月 5 日 金閣寺見学 （京都府）

8 月 5 日 歓送報告会
訪日の成果を発表（東京都）

8 月 6 日 江戸東京博物館見学 （東京都）

8 月 6 日 成田山新勝寺見学 （東京都）

4　参加者の感想（抜粋）

〈公務員分団〉

〇印象に残った内容：

一. 清潔で塵ひとつない。どこに行っても非常に清潔で、環境がとても良く維持されている。

二. 国民の資質が高い。目にしたり交流した日本人は皆とても仕事への意識が高く、一般の人もみな規則を遵守し、他人のために物事をする、という意識が社会に根付いていると感じた。

三. 物を最後まで利用する。廃棄物の再利用がきちんと行われており、循環型経済が整備されている。自動車も排気量の小さいタイプが中心で、様々な面でよく節約されている。

四. 社会全体のコストが少ない。誰もが規則を守るため、大量の公的人員を投入して社会秩序を維持する必要がなく、それでも秩序が整然としていて治安が良い。

帰国後に周囲に伝えたいこと：

一. ありのままの日本を理解し、実際に日本に行って体験すると良い。

二. 日本には中国が真摯に学ぶべき点がたくさんある。上述の 4 点及び政府の運営、高齢者政策など、多方面にわたる。

三. 正確に、理性的に両国関係をとらえ、小異を残して大同を求め、ウィンウィンの関係を築き、両国国民の福祉を推進する。

〇大田区工場アパート（OTA テクノ CORE）の視察を通じて、大田区の産業誘致について強い印象が残った。日本と中国には相似点が多い。高齢化問題は、数多くの伝統工芸の継承者不在状態を生み出しており、また、資本の集中化という現状において中小企業をいかにして発展させ、いかにして保護していくか、という点は、中国でもまさに直面している問題である。

大田区の説明によれば、東京都は大田区を伝統的な中小企業の集積地として認識し、且つ、それらが日本経済の発展にとって欠かせないものであると認めている。これはまさに現在中国が実施しようとしている内容であり、ここからより多くの経験を吸収することができる。

日本の都市は計画的に管理されていて、環境が美しく、一般市民の仕事への熱心な取り組みも強く印象に残った。日本での数日間、私は団員の仲間とともに、一外国人としての立場で観察を続けた。行政部門、企業、博物館、京都や東京の有名な景勝地を見学し、行政部門や企業との交流を行い、東京の街角で一般市民と触れ合うことによって、近隣の国、日本を深く感じることができた。我々の顔や、文字、文化は似てはいるが、異なる点もたくさんあり、両国の社会の進展も異なる段階にある。日本はその地理的環境の特性により、日本政府は管理整備の面に関して綿密に計画を練り、綿密に詳細に配慮しており、これらは感嘆に値する。東京には高層ビルがあふれ、しかも多くの施設が複数の機能を有している。街角の飲料自動販売機が緊急時の飲料供給機になることには、強い印象が残った。日本人の資質、職業精神、情熱はまさに春風のように暖かく、これもまた都市の顔と言えよう。中国と日本には、行政としての整備防災計画や産業誘致などの面で直面する多くの相似点がある。日本は多くの成功実績を有しており、この面では我々も日本と深く交流し、相互に学ぶべきである。

〇東京都の防災プランの講義を聴いて、日本の防災教育に関して強く関心を持った。日本は自然災害が頻発する国であり、国民も常に強い災害危機意識を有している。行政、コミュニティ、個人で構成される社会全体の防災教育体系が形成されている。学校での防災教育は重要な役割

を担っており、小学校から開始して教育段階に応じた防災教育課程が組まれている。各種の防災教育プログラムが組まれ、現実的で効果的な防災方法が教えられ、実効性が高い。実践教育と教室での授業とが融合しており、日本の子供たちは幼いころから強い防災意識が養われる。非常に参考に値する。

今回の訪日を通じて、日本人全体の資質の高さや、情熱的で真摯な応対ぶり、高い節約精神と資源の再利用システム、美しく清潔な環境などが、強く印象に残った。とりわけ印象深かったのは、資源利用の効率性である。

日本では社会の節約意識が非常に高く、この意識は日本社会の生産や消費構造、社会運営の中に深く浸透している。京都市南部資源リサイクルセンターの視察では、日本の循環型経済モデルと、国民・企業・行政の三者共同による資源の利用方法に非常に触発された。行政の政策指導や家庭と学校での教育を通じて、節約という意識は個々の日本人に確固として自覚されており、それは日本のメイン競争力の一つともなっている。この点は、現在まさに資源節約型・環境にやさしい社会の建設を目指している中国にとって、参考且つ学習の価値の非常に高い内容である。現在、節約美徳教育を実施中の北京市の小中学校にとっても、啓発的意義が高い。

帰国後は、日本での見聞を同僚や友人に伝え、より多くの人が日本を理解することを推進したい。

〇大田区の産業支援施策では、行政が優れた宣伝推進者の役割を果たしている。環境基盤において小規模企業に対して作業場所を提供し、小規模工場の作業環境を改善しており、同時に、異なる業種を集結させて合作や共同制作を促進している。行政のアピールにおいても、公的チャネルを通じて小規模製造業者の価値をアピールし、小規模企業に対する国民の見方を改善し、社会におけるアイデンティティを高め、製造業のたゆまぬ発展とその継承を支えている。この手法は、学ぶべきである。

東京都の防災プランの紹介や京都市南部資源リサイクルセンターの視察では、異なる視点から、国民の意識の育成に対し、幼いころから、全面的に、長期的に実施されていることを知った。例えば防災や地震発生時の対応では、幼稚園の段階から防災教育を受け、防災訓練があり、成年に至るまで異なる形式でこれらが実施される。ゴミの分別の意識もまた、幼いころから実施され、大人が見本を示す教育方法によって、高いゴミ処理意識が養われる。中国でもこれに倣い、幼いころから国民の意識育成を行うべきである。

〇日本ではゴミの分別回収が非常に整っており、今回の訪日ではゴミの分類方法や回収の流れを学んだが、これらは行政がゴミ処理の業務を推進するうえで非常に役に立つものである。

大田区は OTA テクノ CORE のような工業アパートの建設に力を入れており、企業が技術のイノベーションの活力と技術研鑽の原動力を維持できるよう支援している。企業の規模は小さくとも、そこには最先端且つ精鋭の各種産業が集結しており、“職人”精神が生き生きと発揚されている。それぞれの企業が業務を分担して協力し合う状況では、少数の企業に何もかもが集中して産業内競争を激化させるような事態にはならない。この状態は製造業の産業構造をより合理的にし、より多様化させる。中国も学び、深く考えるべきである。

今回の訪日において、日本人の責任感とプロ意識の高さを痛切に感じた。OTA テクノ CORE の職人にしても京都市南部資源リサイクルセンターのゴミ分別の作業員にしても、また、一般的な職業での従業員にしても、一人一人がみな自身の担当する業務に力を尽くし、仕事への溢れ

る情熱をもって、小さなことにも取り組んでいる。彼らとの交流を通じて、彼らがみな仕事を愛し、その仕事に誇りを持っていることを深く感じた。まさにこうした高い職業精神が、日本を大震災や経済停滞の深い谷から抜け出させ、経済の持続的な活力と整った社会秩序を維持させているのだと思う。これはまさに、中国が学び、感じなければならない点だと強く思う。

〈経済分団〉

〇日本経済団体連合会との交流を通じて、日本の経済発展史と現状に対して一定の理解を得ることができた。

キッコーマンむらさきの里もの知りしょうゆ館の視察では、しょうゆの製造過程とキッコーマンの発展の歴史を学んだが、キッコーマンしょうゆの伝統的な製造手法と現代のテクノロジーとの融合、及び、企業として人々の健康を考えるキッコーマンの姿勢が印象的だった。

京セラ株式会社の訪問では、京セラという企業に対して新たな認識を得た。京セラの多元的（アメーバ）な発展理念や、イノベーションと仕事への真摯な姿勢を重視すること、そして創始者である稲盛和夫氏の哲学思想には、個人的に非常に啓発されるところがあった。今後、稲盛氏の関連書籍などを研究してみようと思う。

〇京都で京セラ株式会社を訪問した。京セラは日本の経済界で高名を博す稲盛和夫氏が創設した企業で、世界最大のファインセラミックメーカーであり、世界トップ500に入る企業である。京セラは“敬天愛人”を社訓とし、“全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること”を企業理念としている。京セラの企業イノベーション精神と稲盛和夫氏の経営哲学には、個人的に非常に啓発された。

〇日本経済団体連合会を訪問し、日本経済の発展の歴史と 20～50 年後の経済整備対策を学んだ。訪問を通じて学んだ内容は非常に有益で、アベノミクスに感服し、持続可能な発展を果たすには、20～50 年先、或いは更に長い期間の実際の国情を考える必要があり、現実を起点にして正確な対策施策を採ることこそ、発展の道だということを知った。

〇日本の企業発展と経営理念は学ぶに値する：企業とは、経済を発展させ、利益を得るためだけに存在しているわけでは決してない。より重要なことは、企業は社会の一員として、積極的に社会の責任を負い、国民の幸福と社会の進歩のために果たすべき貢献をしなければならない。偉大な企業とは、間違いなく傑出した社会的責任を果たす企業であり、偉大な国家とは、国民の福祉を重視し、間違いなく人間本位な国家である。

今回の訪日では、次のようなことが強く印象に残った：

一. 企業の発展には、向上の上にも向上を重ねる姿勢が必要である。日本の多くの著名な企業が世界にその名を馳せている理由は、物事の頂点を極める精神があるためである。たとえ小さな普通の事柄でも、絶えずイノベーションし、頂点まで極めれば、他とは違う非凡な成功を得ることができる。頂点を極めようとする職人精神を常に持って物事を行い、企業を経営し、社会を整備すれば、必ずや成功する。このことは、まさに学ぶべきことである。

二. 日本の経済発展やインフラ整備は、一貫して人間本位に行われており、この点は学ぶべきである。日本の教育、医療、法律は相当なレベルで弱者を保護し、社会の均衡を維持

している。国民から徴収し、国民のために用いる理論が実現しており、まさに尊敬に値する。日本の環境保護や、文化継承を重視するそのレベルの高さには、本当に驚かされた。文化の継承と歴史の継承を重視する民族はまさに、優秀な民族である。

日程は短く、行程は駆け足で、深く理解したいがそれができなかった事柄はまだたくさんある。以上は私の独自の見解である。

〈医療分団〉

〇Daiichi Sankyo くすりミュージアムでは、日本の薬品の成り立ちから臨床応用までの全過程の作業とそのための努力、そして更に高い目標を目指す様子が展示され、薬を用いる側にも深い認識を与えてくれた。日本の医療保険制度や公立病院の医療水準、医療人材の育成制度は完備されており、国の医療衛生事業の発展推進に十分な基礎を打ち立てている。代々受け継がれる医学者精神は、メーカーの医療製品の研究開発や応用面などでたゆまぬ向上を促し、現場での応用や医療事業の発展をよりよく推進している。

その他、訪問や交流を通じて、いくつかの印象深い体験をした。具体的には次の点である：

1. 都市の環境衛生が整っていて清潔であり、メンテナンスも優れている。
2. くすりミュージアムが生き生きとしたイメージで設計されており、一般市民に対して開放的にアピールされており、薬品の宣伝だけでなく、一般市民が医薬に対する認識を高め実用常識を学べるようになっている。
3. 公立病院は患者のニーズに立脚し、可能な限りより多くの人々の医療ニーズを満たせるように努めている。比較的安い健康保険を利用し、一般市民の経済的負担をかなり緩和している。
4. 医療設備は極めて正確で、使い勝手の良いデザインが、健康管理や診療に非常に大きなサポート力を発揮している。

帰国後は、見聞したことを知人や友人に伝え、日本の清潔な都市環境衛生、ハイエンドで非常に正確な技術開発の理念、デザインの開発、そして医学研究のたゆまぬ発展努力を、多くの人に知ってもらいたい。交流を通じて体験したことからその本質部分を取り出し、自分自身の不足部分を補い、その不足部分を自分自身のメリットを維持し成長を推進する鑑とし、今回の中日友好交流の価値を現実の価値にしていきたい。

〇日本人の平均寿命は世界最長であり、同時に高齢化問題が生じている。しかし、日本には国民皆保険制度と高齢者健康保険制度があり、段階別の診療制度が整い、一般国民の医療支出への負担を軽減している。医療保険に関しては、日本人の幸福度は極めて高く、病院への満足度もまた非常に高い。いかにして中国の医療環境を改善し、医師の待遇を改善し、患者の受診難や経済的負担の厳しさという悩みをいかにして軽減していくか。日本の医療保険制度と段階別診療制度には、学ぶべきものがある。町のかかりつけ医の役割を十分に発揮し、軽い病気は小さな医院で、重い病気は大きな病院で、特殊な病気は専門病院で、という三段階の医療バランスを実施し、より多くの優秀な医療従事者を、忙しく機械的に仕事をこなす状態から解放し、より多くの時間を医療の進歩や探求に費やすことができれば、自国の医療事業の真の発展と進歩を推進できる。

今回の訪日で、日本の経済や環境、医療などの面で強い印象が残った。

1. 便利な地下鉄システム。東京の地下鉄は世界で最も複雑なシステムと言われており、その

路線の多さとコントロールの正確さは、学ぶに値する。

2. 衛生的な生活環境と厳密なゴミの分類制度。日本の道路にはほとんどゴミ箱が見当たらないが、それでも清潔な生活環境が保たれている。いかにして中国の基礎教育を改善し環境意識を高めていくか、これも学び模範とすべきである。
3. 完備された国民皆保険制度。日本は先進国であり、一人当たりの平均収入は中国よりはるかに多い。しかし、患者が負担する医療費は中国より低く、病院に対する患者の満足度は8割にも達する。
4. オムロンヘルスケア㈱の医療用健康機器は中国やアメリカなど多くの国で非常に大きなシェアを誇っており、小さな血圧計一つとっても、中国市場で圧倒的なシェアを占めている。まさに尊敬すべし恐るべしである。
5. イノベーション意識。半自動電子血圧計から高機能血圧計まで、オムロンの血圧計発展史から学べることは、たゆまぬイノベーションこそが必勝の道だということである。
6. 伝統文化の継承と保護。

今回の訪日で、我々は日本の正確性、まじめさ、繊細さ、イノベーション、ゆるぎなさを目にした。我々は偏見を捨て、虚心をもって学び、互いに助け合い、小異を残して大同を求め、日本の先進技術やイノベーション理念、成熟した制度、優れたシステムなどについてたくさん学び、発展と進歩を促進していかねばならないと感じた。

〇私は医療分団の一員として、東京大学医学部付属病院やDaiichiSankyoくすりミュージアム、オムロンヘルスケア㈱などの発展とその歴史を視察し、非常に多くの収穫を得た。最も印象深かったのは、日本の医学界も技術界も、トップの指導者層から一般の職員に至るまで、仕事に対する姿勢が謹厳で真摯だという点である。長年、日本民族の“職人精神”には敬服をしていたが、今回、初めて自分がその中に身を置き、この、全世界で尊敬を集める高品質の世界を体験することができた。また、オムロンヘルスケア㈱の発展史は、テクノロジー企業として社会への責任感を体現するものであり、技術を人々の健康維持と疾病予防に用い、他人が幸福を得ることで、自分自身も幸せになるという自然の摂理を体現している。こうした企業理念が、半世紀近い期間の良好な発展を牽引してきたのである。

帰国後は、上述の認識を周囲の人々に伝え、物事に取り組む姿勢、仕事に取り組む謹厳な態度、社会に対する責任と社会の同意の面で、日本民族に学んでいきたい。

〇専門分野に関しては、次のような収穫があった。

1. DaiichiSankyoくすりミュージアムの視察：
   a. 薬品の研究開発には非常に長いプロセスが必要であり、一つの新薬が実用化されるまでにはおおむね9～17年の時間がかかる。これらの努力を経て初めて、薬品の正しい作用が保証され、副作用が最低限に抑えられる。
   b. 薬品の製造には、薬効研究だけでなく、薬物の状況や吸収も同じく重要である。
2. 東京大学医学部附属病院：
   a. 概要：教育と研究の重視。大学の附属病院として、教育に費やしている比重が高い。また、研究面では、専門的な臨床検査管理部があり、臨床研究が厳格に管理されている。
   b. 総合研修センター：医師として備えるべき人格を育成し、基本的な治療能力を掌握し、徐々に具体的な専門分野の知識を掌握していく。

3.オムロンヘルスケア株式会社：

a. All for health care。この言葉を基本に、より良い新製品を研究開発する。

b.技術研究の精緻さと発展は、極めて重要である。

今回の訪日を通じて、三点が印象深かった。

第一は、環境の重視である。町にはほとんどゴミ箱が見られない。市民はゴミを家に持ち帰って、分類して捨てる。いくつかの場所に設置されているゴミ箱も、明確に分類されている。これは、ゴミの回収をとても容易にする。

第二は、時間を正確に把握する点である。どのプログラムも明確に時間が計画され、時間通りに始まり、そして終わる。時間の無駄というものがない。

第三は、細かな事も真面目に行う点である。プログラムの開始前には関連資料が配布され、実施内容が詳細に示され、どれも詳しく説明される。モーニングコールから会場の位置、別送荷物の回収まで、すべてがとても詳細である。

帰国後は、同僚や友人、家族に、日本のいくつかのものは非常に学習価値があることを伝えたい。我々は、日本人の真摯な態度、物事への詳細な取り組み、すべてを正確に完成させることを、学ぶべきである。また、日本人の周辺環境の保護、ものを最後まで使う、無駄にしない、壊さない、水一滴・米一粒まで大切にする精神を学ばねばならない。最後に、我々が学ぶべきことは、自己の不足部分を見つめ、努力して修正していく精神だと感じた。どんな人間にも長所と短所がある。自分の欠点を見つけ、それを直していけるようにしなければならない。

〇東京大学医学部付属病院を視察し、国際部主任から病院の運営と医療人材の育成に関する説明を受けた。視察を通じて、東京大学医学部付属病院の運営モデルと人材育成が国際化されていることを知った。在学生は一層自由に力を発揮でき、専門的な学習を行える。病院運営では整備された企業式経営モデルが実施され、患者の利益を最大限に保証すると同時に、病院の医療水準や世界における地位も大幅に向上している。